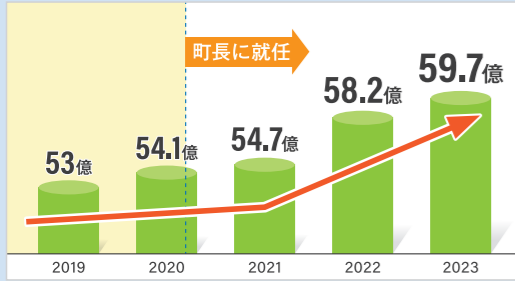


町長就任から4年。大津町はどう変化したの？

① 税収が着実に増えています

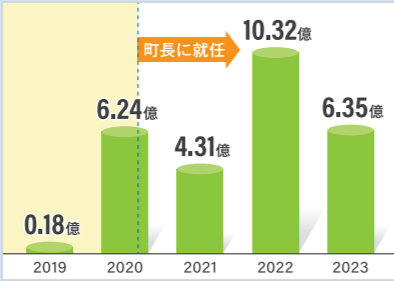
▼ 町税収入推移（一般会計決算：収入済額）



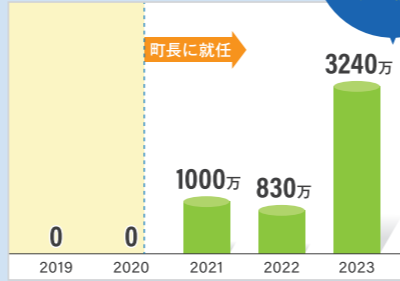
参照：大津町決算資料を集計（端数切下げ）
※期間は年度表記のため、「2020」は2020年4月から2021年3月までを指します。

② 町税以外の収入も大幅に増えています

▼ ふるさと納税額推移



▼ 企業版ふるさと納税額推移



2024年度は既に
5000万円を
突破！

③ 住宅開発や企業進出が加速しています

▼ 開発申請戸数（戸建て + 集合住宅の室数）



参照：大津町まちづくり懇談会資料

共に急増！
企業進出
2021年以降の
新規・増設企業数
約40社

④ 企業や団体、大学との連携が進んでいます



⑤ 町の条例制定権を生かしています

0 → 8
政策判断に関連して
制定した条例数

⑥ スマートシティ化が急速に進んでいます

役場窓口や税金支払いでの クレジットカード払い・ QRコード決済	防災無線 内容の LINE通知	公共施設の オンライン予約
各種申請の オンライン手続き拡充	河川水位 予測システム	河川監視 WEBカメラ
スマホで使える LINE版図書館利用 カード	小中学校1人1台 パソコンへの AI学習ソフト	～誰一人取り残さない～ 県内初！移動型スマホ教室
スマホでの 道路や側溝の 不具合報告	スマホでの 鳥獣の目撃や 被害報告	etc.

新たな遊具公園も
企業版ふるさと納税で
2024年12月に実現！

スポーツの森・大津

町民の皆様のご理解とご協力によって、町長就任以来、多くの予算や条例案などを上程し、議会にも、その全てを可決いただき、新風Vo.36(冊子)でご報告の通り、【101の具体策】のすべてに着手し、実現・進捗させることができました。

一方で、住民生活や「声」は多様であり、謙虚に見方を変えて「出来たこと」ではなく「できていないこと」を挙げ始めれば、それこそ無限に出てきます。政治とは未来の世代を含めて、「全ての人の恒久的幸せの実現」を目指すものだと考えていますが、そこには予算をはじめとした様々な制約があります。

役場あるいは政治家は制約があるからこそ、知恵を絞り、説明を尽くす。そして、「全ての生活者」に対しての責任があるからこそ、課題と真摯に向き合い、時には厳しい決断をして「理解や協力」も仰ぐ。そうして少しずつでも、「みんな」で理想の地域を創っていくことが大切だと考えています。

今後も感謝と謙虚さを胸に、引き続き住民生活向上と町の繁栄に向けて尽力します。

金田 英樹



shinpu 新風! vol.37

1期4年間の報告冊子も是非ご覧ください！

公式WEBサイトでも公開中！



全56ページ

数字で示す！

【101の具体策】の実績・進捗を掲載

- 税収UP↑
- ふるさと納税UP↑
- 人口UP↑
- 企業誘致数UP↑
- 民間との連携UP↑
- 条例制定数UP↑
- 先進技術（ICT）の活用UP↑

カナダ 大津町長 金田ひでき

■1982年 大津町生まれ 42歳
■慶應義塾大学 経済学部を卒業後、第一生命保険(東京)にて、業務効率化、国際業務、英国駐在などを担当・歴任
■30歳から大津町議を2期8年務めた後、2021年2月より現職



今後の取り組みと基本姿勢

1 【101の具体策】大綱の更なる推進

- ① 命を守る徹底した防災・防犯対策
- ② 子育て支援・教育環境日本一のまちづくり
- ③ 人生100年時代を見据えた福祉
- ④ 活気とにぎわいを生む仕組みづくり
- ⑤ 町内産業支援と活性化
- ⑥ 町民に信頼され、愛される役場へ

2 4つの基本姿勢の継続

- ① 民間の知恵と活力を生かす
- ② 先進技術（ICT）の活用
- ③ 具体的な制度と仕組み化
- ④ 強力なトップセールス

3 【新しい大津】の都市づくり

- ① 肥後大津駅の周辺整備と活性化
- ② 空港アクセス鉄道と中間駅・周辺開発
- ③ 渋滞緩和と賑わい創出への道路計画
- ④ 町全体の活性化への都市計画

町民の皆さまとともに歩んできた「新しい大津」への挑戦と実績

- 太陽光発電設備規制条例の制定
- 18歳までの医療費無償化
- 空き家活用への補助制度の創設
- 街中や河川監視カメラの増設
- 高齢者免許返納への支援制度の創設
- 起業創業支援助成制度の創設（3年間で新たに26の新事業が誕生）
- 防災無線内容のLINE配信
- まちなかバスの運行開始
- 産業支援型企業の誘致
- 町内全街灯のLED化
- 認知症サポーター既取得者研修の開催
- 大津町初の女性副町長
- 大型複合遊具公園の新設
- 熊本健康アプリの導入
- 産業支援型企業の誘致
- 保育所でのオムツ持ち帰りの廃止
- 手話言語条例の制定
- 大津町初の女性副町長
- 小中学校AI学習ソフトの導入
- JA移動販売車のエリア拡大
- 非公務員型（SPI）採用試験の導入
- 子ども第三の居場所の設置
- スマート農業導入助成の創設
- スマート農業導入助成の創設

※一部をご紹介します

発行：金田ひでき後援会

〒869-1233 大津町大津1399-4

070-1291-1271

ozu.kanada.h@gmail.com



【101の具体策】および、その進捗状況を公式WEBサイトに掲載しています！



かなだ ひでき

検索

公式WEB



101の具体策



「新しい大津」の
ランドデザイン

これまで、大津町においては肥後大津駅周辺整備や新駅設置、新たな大型道路や工業団地整備などの議論はあったものの、具体的なランドデザインはありませんでした。

一方で、菊陽町の新駅と周辺開発は20年以上前、合志市の御代志駅周辺開発は10年以上前に取り組みの種がまかれています。いずれも長い時間を要していますが、まずは都市をデザインして一つひとつ進めてきたからこそ、着実に具現化していています。

私も町長就任後より、まさに種まきから始めたところですが、町の活性に向けてランドデザインを創り、予算の獲得を含めて出来る部分から着実かつ迅速に進めています。



拡大版を新風Vol.36のP52に掲載

肥後大津駅 周辺整備



北口



南口

実施しました

- ▶「肥後大津駅周辺まちづくり基本構想」の策定
- ▶カフェや飲食店誘致・集積に向けた社会実験
- ▶東海大学スクールバス発着場の整備(毎日約300人が利用)
- ▶企業と連携した通勤バスの運行開始
- ▶駅南口「くまモンベース」の誘致
- ▶通信制高校を核とした教育拠点の誘致
- ▶混雑緩和に向けたバス転回広場整備関連予算の可決
- ▶飲食店や宿泊施設等の誘致
- ▶JRや近隣商業施設等との協議・連携(継続実施中)

今後の構想 (肥後大津駅周辺まちづくり基本構想より)

- ▶立体駐車場の整備
- ▶駅前広場の整備
- ▶歩きやすい歩道の整備
- ▶送迎用スペースの整備
- ▶シェアカーやシェアサイクル等の導入
- ▶駅を起点とした公共交通の強化
- ▶近隣公共施設の再編・集約化
- ▶シェアオフィスやテナントビル等の誘致・連携(駅周辺ビル構想)
- ▶旧道商店街等との連携も含めた賑わい創出や町民が集い憩える空間整備

実施しました

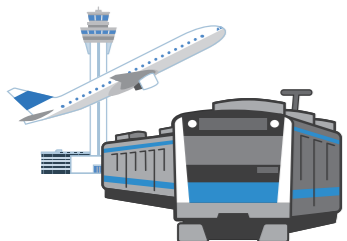
- ▶三里木駅ルートから肥後大津駅ルートへの変更に向けたJRへの要望訪問(就任時はまだ「三里木ルート」の計画でした)
- ▶中間駅設置に向けた事業主体である熊本県庁との協議
- ▶商業施設(モール)誘致に向けた事業者ヒアリング・協議
- ▶エリア整備に向けた「都市計画マスタープラン」の見直し中

今後の構想

- ▶空港アクセス鉄道開通に合わせた中間駅設置
- ▶中間駅近隣における商業・居住エリアの整備
- ▶新規鉄道路線も生かした南北道路の整備
- ▶新駅近隣である町の南部・東部をはじめとした町全体への波及効果創出

空港アクセス鉄道 「中間駅」の設置 および周辺整備

(2034年度内の開通予定)



意義と意図

空港アクセス鉄道開通という好機を活かして町の南東部に新たなエリアを整備することで、近接エリアはもとより町全体の活性化に繋がります。また、新駅設置に合わせて現在大津町にはないモール系商業施設を誘致することで、町民全体の利便性向上や新たな経済効果創出にも繋げる考えです。



新たに描いた道路や肥後大津駅周辺、工業団地整備等にあたっては陳情も重ね、既に国からの多額の予算も獲得しています。



「101の具体策」の項目に留まらず、特に質問の多い取組みを一部ご紹介します

1 水の保全

「水循環型営農推進協議会」の会長として、地下水涵養の取組みを進めました。地下水涵養事業は耕作期以外にも農地に水を張り、地下に水を浸透させて地下水を増やす取り組みです。今年度から協力企業等のご理解によって、協力農家の皆様への助成金の対象期間や単価引き上げが実現したこともあり、涵養水量が大幅に増加しました。



2 開発のバランスと農地・農業

現在進めている「都市計画マスタープラン」の見直しによって、住宅地、工業地、農地等のゾーニング(区分け)をおこなうことで、それぞれの開発を緩やかに誘導しながら騒音や匂い、渋滞などの生活課題の改善・解消にも繋がっていきます。また、今後の農業従事者の高齢化や減少を見すえた「スマート農業導入助成」や「ほ場整備(農地改良)」などにも取り組んでいます。



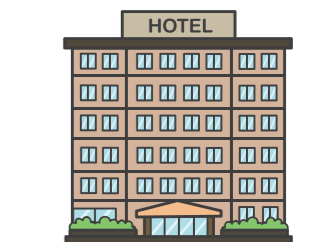
3 渋滞対策

大津町で初めて実施した「交通量調査・分析」の結果も生かして短中長期の取組みを進めています。新風Vol.36のコラム6(P34)や具体策52~54においても取組みをご紹介します。



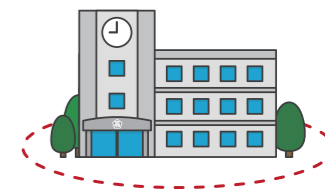
4 宿泊税の導入とホテルの誘致

ホテル宿泊者から頂く「宿泊税」の導入に向けた協議や事業者・宿泊者へのアンケートを進めています。一方でホテル誘致にも力を入れており、新たに6棟1200室超のホテルが建設される見込みです。こうした新たな財源も用いて多くの宿泊者も利用する「駅周辺整備」や「公共交通の充実」、「スポーツの森等の改修・機能強化」、「観光施策の強化」などを進める考えです。



5 県立高校学区外枠の拡大 (全県一区制への移行、県央学区への編入)

「101の具体策 NO.34」でも掲げている学区について、町として初めて県との意見交換を行いました。また、推進に向けては同じ境遇にある町村長とも情報等を共有しています。今後も町内の県立高校の更なる魅力化についても各校と連携して進めながら、学区外枠拡大等に向けても早期の実現を求めています。



6 温泉施設の整備・誘致

解体された大津温泉「岩戸の里」をはじめ、近隣でも多くの市町村営の温泉が赤字を理由に閉鎖や民間委譲されており、町営での温泉整備は難しいという認識です。現在は新たに立地予定の宿泊施設等に温泉を一般開放していただくことも含め、民間の温泉誘致に取り組んでいます。



7 「中九州横断道路」の早期開通と北部開発

熊本市と大分市を結ぶ高規格道路である「中九州横断道路 大津道路」の早期完成に向けた国への要望を重ね、2024年4月に悲願の事業化に至りました。北部を中心に物流拠点をはじめとした開発余地が高まるため、産業や住宅等の誘導によって地域の活性や過疎対策にも繋がっていく考えです。



「101の具体策」の各項目は公式WEBサイトにも掲載しています

